
少女に役立たずを

氷純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少女に役立たずを

【Nコード】

N3300V

【作者名】

氷純

【あらすじ】

男は誘拐した少女の異変に気付く。
だからこそとる行動には覚悟がいる。

ーどうなっっていやがる。

男はプリペイド携帯を片手に天井を仰いだ。

その姿勢で思い出せば不審な点はいくつもあった。だが、信号無視すらためらう男には想像もつかなかったのだ。今は男の部屋の片隅で膝を抱えて眠る少女が捨て子だとは、一切。

それに気付かず誘拐した男は少女の落ち着いた寝息に何とも居たたまれない気持ちになる。そもそも、少女はいくら真夏とはいえ汗臭かった。服装が長袖であることについても深く考えてなかった。しかし、眠る少女の手首に付いている血や頑なに着替えを拒む様子を見れば流石に気付く。

拳げ句の果てに子供の両親に電話すれば「そのまま育てろ」と非情なお言葉だった。子供一人育てる経済力があれば誘拐なんて端からしい。それを告げれば「なら捨てれば？　じゃあ任せた」との有り難い提案を最後に通話を切られてしまった。それから電話は通じない。

「どうなっっていやがる」

口に出して床に寝転がる。

児童相談所、そんな単語が脳裏をよぎった。親元に帰すより安全だろう。虐待に気付いて保護したと誤魔化せば自分の身も無事なはず。

保身を同時に考える自分に嫌気がさした男は携帯の液晶に目をやる。

仕事を首になり、付き合っていた彼女はあっさり男と別れた。流れてくる噂では二股かけていた別の男と結婚するそうだ。貯蓄がないのは彼女に貢いでいたから。男も薄々気が付いていた。金を使わなければ続かないと心の何処かで。

愛があつたか意地があつたか、どの道役立たずな代物だ。

男は自分をあざ笑う。金の切れ目は縁の切れ目、壁際の少女とも最初から切れているのだ。清々しい程にぶつつりと。ならば何を迷っているのか？ 携帯の発信ボタンで少女とはサヨナラだ。繋がりを錯覚させるのは同情か共感か別の何かか、役立たずな代物。

小さく身じろいで少女が起き出した。男は反射的に瞼を閉じる。

――俺は寝ている。出ていけ！

それだけでこの関係は終わりだ。

少女は男が寝ているか確認すると布団を引きずって男に掛けた。

男は頭を抱えなくなる。役立たずが積み上がる、そんな感覚。少女は男が薄目をあけて確認しているのも知らずに投げ出されていた携帯を机に置き男の隣に静かに座る。男が暑さに耐えられずに布団を跳ね除けると慌てた様子で掛け直す。仕方なしに男が起き出すと壁際へと逃げていった。

その様子が役立たずを大きくしていく。

――仕方ない。明日まで面倒を見よう。

夜も遅いのだからと言いついて男は布団に手を伸ばす。少女に役立たずを押しつけるために。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3300v/>

少女に役立たずを

2011年10月9日10時29分発行